



株式会社文化時報社
発行所・〒600-8243
京都市下京区猪熊通り堀小路下ル
電話(075)371-0159
FAX(075)371-5803
info@bunkajihoh.co.jp
購読料 (送料共)
1部300円 1ヵ月2,450円(半年または年間)

TOPICS

分断から和解へ	6
佛光寺派宗務総長 退任へ	5
全寺院に一律5万円	5
連載小説 運命の邂逅	6

ご縁を喜び、お念仏とともに
ロゴマーク発表・4面

東本願寺御用達
千六〇〇・八一四
電話 〇七五・三三三・六三三
FAX 〇七五・三三三・五五五
日下念珠店

・文化時報は、人生の道しるべとして、時代の半歩先を読む宗教専門紙です。
・文化時報は、健全な経営を行い、この時代の時代にふさわしい良質な紙面を作ります。
・文化時報は、従業員一人一人が高い専門性と広い視野を持ち、宗教界の発展に貢献します。

宗土浄西山 土江宗務総長が就任

新内局発足、学園も新体制

西山浄土宗は1日、総本山光明寺大蔵で、土江賢祥宗務総長を筆頭とする新内局の認証式を営んだ。(写真) 土江内局の顔触れが初めて明らかになった。同宗では9月28日以降、宗会議員の認証交付や、学

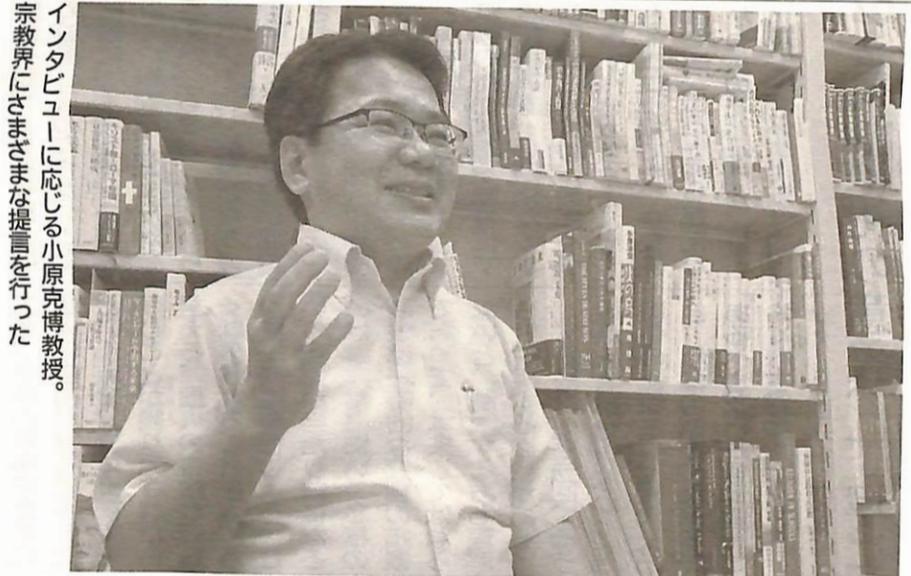


目下は開宗850年

新内局の認証式では、関係寺院や檀信徒、寺族らが見守る中、堀本賢順総本山光明寺法主から認証が授けられた。堀本法主は垂示で、四諦八正道の用語解説の「正見」について解説し、「宗門内でさまざまな意見があり、それぞれ自分が正しいと思っ

緊急事態宣言半年 私権の制限は問題

小原克博・同志社大学教授に聞く



新型コロナウイルスの感染拡大を受けて政府が初の緊急事態宣言(用語解説)を出してから、7日で半年を迎える。宣言は外出自粛要請などを通じ、感染抑止に一定の効果をもたらした半面、社会・経済活動を停滞させ、私権の制限を可能としたことに懸念を残した。宗教学界は、宣言を巡る一連の動きをどう受け止めるべきなのか。宗教はコロナ禍から現代人を救えるのか。キリスト教思想と宗教間対

話に詳しい小原克博同志社大学教授(宗教学論学)に聞いた。
小原教授は緊急事態宣言に対し、宗教界が同調圧力を強める動きに異を唱えるべきだったと指摘。先の大戦における戦争協力力の反省に基づいて、「私権の制限には慎重であるべきだ」と言、言っておくべきだったと述べた。
その上で、感染者への差別は14世紀に欧州でペストが流行したときと変わらぬ。宗教者が自分たちの問題として引き受けることが重要だと強調。教団は教えの根本に基づくメッセージを社会に発信し、「人が不条理とどう向き合うかを語るべきだ」と語った。
感染症対策より経済活動を優先する政策に関しては、不確定的な見解を示した。分散型社会の実現と自然保護を軸に、持続可能な社会を目指すべきだと主張。「世代を超えて記憶を継承できる宗教には、元の形とは違う社会を構想できる」と話し、宗教界にいつかの社会参画を促した。

インタビューに答える小原克博教授。宗教学界にさまざまな提言を行った

作文コンクール開催

文化時報社は、小中学生と高校生を対象とした「第1回文化時報作文コンクール」を開催します。若い人たちに、神仏を敬う心と思いやりの精神を持ち、未来を力強く生きてほしいとの願いを込めて、文章力と表現力を磨いてもらう企画です。
テーマは「お坊さんと私」。4000字詰め原稿用紙2〜4枚程度で、手書きのものとします。最優秀作品賞には賞状とAmazonギフト券5千円分を贈呈します。
締め切りは11月30日。作品は弊社までお送りください。入賞者は2021年1月下旬ごろ、紙上にて発表し、作品は紙面に掲載されます。
募集要項の詳細は弊社ホームページをご覧ください。
<https://bunkajihoh.co.jp/>
文化時報社



小原克博教授インタビュー 詳報

宗教は社会を構想できる

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う政府の緊急事態宣言から半年を機に、文化時報のインタビューに応じた小原克博同志社大学教授(宗教学論)は、宗教界に数々の提言を行った。コロナ禍で顕在化した諸問題に、宗教はどう向き合い、何をすべきなのか。

(主筆 小野木康雄)

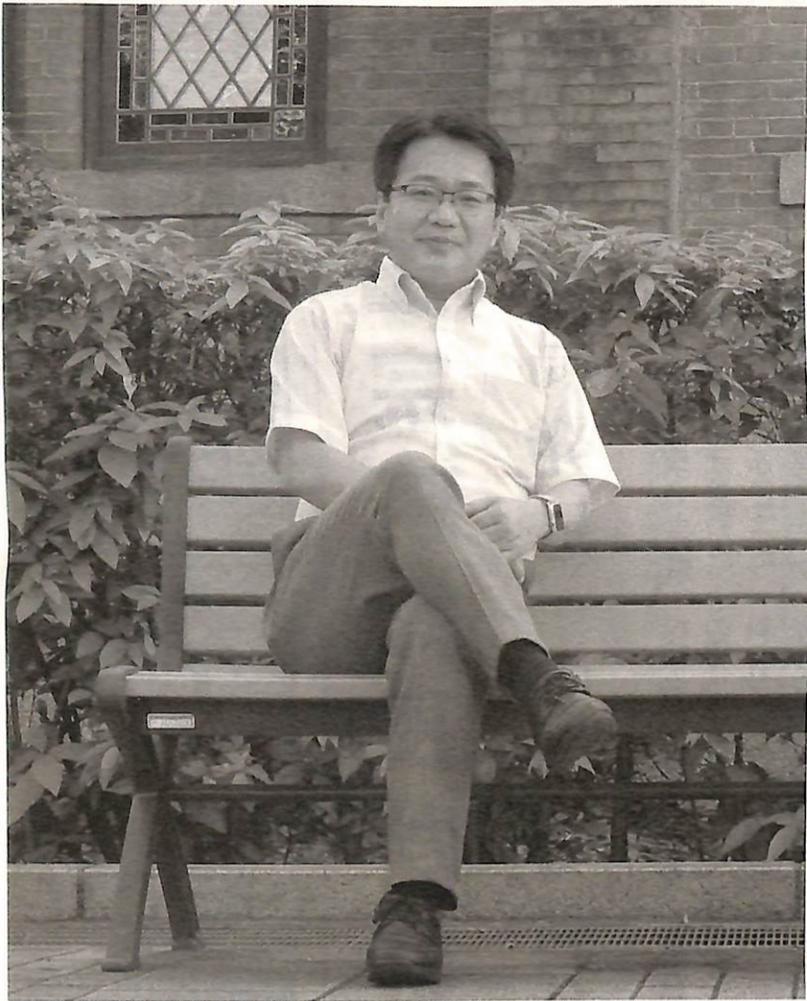
緊急事態宣言 戦時体制の繰り返し

「命と健康を守る」という目的があったとはいえ、私権は著しく制限された。それは、絶えず持たなければならぬ」

「日本社会には、強い同調圧力が働いている。秩序に合わせることは、普段は当然の道徳と認識されているが、緊急事態宣言のように締め付けが厳しくなると、なじめない人が攻撃される。戦時中の『非国民探し』が、現代にも『自粛警察』として現れている」

「宗教界は、どのように対応すべきだったのでしょうか」

「宗教界には、先の大戦で国家による同調圧力を補完してきた歴史がある。そこを反省した上で、同調圧力とは関係のない生き方があることを示すべきだった。政府に協力してコロナ禍の終息を祈願するのでもいいが、それだけでは体制の一部に組み込まれてしまう」



小原克博(こはら・かつひろ)1965年、大阪生まれ。同志社大学大学院神学研究科博士課程修了。現在は同志社大学神学部教授、良心学研究センター長。専門はキリスト教思想、宗教倫理学、一神教研究。著書に『ビジネス教養として知っておきたい世界を読み解く「宗教」入門』(日本実業出版社、2018年)などがある。

「宗教界も、これまでは出る杭を打ってきた。組織は固く、異質な者を排除する。組織力を持った教団は、国家にとって利用価値が高いことを忘れてはならない」

「くしくも今年は戦後75年とあって、戦時体制を想起した人も少なくありませんでした」

「仏教と不殺生はワンセットであり、仏の教えに

「オンラインでの法要や礼拝については、どう考えますか」

「教団という信仰共同体にとって、法要や礼拝は志を共有する人々が集まる機会であり、特別な意味を持つ。背に腹は替えられないという状況でオンラインの

オンライン法要 儀礼の意義、丁寧に

「感染者に対する差別が問題になっています。宗教はどのように向き合っていくべきでしょうか」

「14世紀に欧州でペストが流行したとき、クリスチャンの間に広がったのが、ユダヤ人への誹りだった。感染を引き起こした人を特定し、弾圧・迫害を加えるという精神構造は、現代においても変わっていない」

「どんな宗教もほぼ例外なく、異質な他者を排除し

コロナ差別 葛藤を社会に伝えよ

「宗教界には今回、そうした指摘ができなかった。戦争の記憶と併せて考えると、私権の制限には慎重であるべきだと一言、言っておくべきだった」

「宗教界には今回、そうした指摘ができなかった。戦争の記憶と併せて考えると、私権の制限には慎重であるべきだと一言、言っておくべきだった」

「宗教界には今回、そうした指摘ができなかった。戦争の記憶と併せて考えると、私権の制限には慎重であるべきだと一言、言っておくべきだった」

メッセージ 一般に届いていない

「教団が相次いで声明を出したことの評価はいかがですか」

「まず、伝わっているかどうか。信徒向けのメッセージを一般の方々に届けて、インターネットを通じてそのまま配信しても、意味を受け止めてもらえない。ネットという公共空間に出る以上、信徒向けと一般向けでメッセージを



「宗教者が陥りがちなのは、自分たちは世間と違う次元に達しているから救いや教えを示せる、という考え方を。これをすると『御高説もつとも』で終わるところか、今の人々を宗教嫌いにさせてしまう」

「宗教者が陥りがちなのは、自分たちは世間と違う次元に達しているから救いや教えを示せる、という考え方を。これをすると『御高説もつとも』で終わるところか、今の人々を宗教嫌いにさせてしまう」

「宗教者が陥りがちなのは、自分たちは世間と違う次元に達しているから救いや教えを示せる、という考え方を。これをすると『御高説もつとも』で終わるところか、今の人々を宗教嫌いにさせてしまう」

2面から続く

「コロナ禍で教団はますます弱体化しています。今後はどうなるでしょうか。」

「信徒数が減り、連動して財政基盤が弱体化しているのは共通する課題。とりわけ伝統仏教教団は、檀家制度に依存せずに収入を得る仕組みづくりを急ぎ、有効な手を打てずにいた。そこへコロナ禍が起き、お金の流れが停滞した。今までと同じやり方で存続しようとすると、早晩行き詰まるだろう。」

「鎌倉新仏教の教えは、危機的な状況にいた中世の人々へ、染み入るように伝わっていった。ところが現代人は救いを求めていないのだとすると、宗教の出番はどこにあるのでしょうか。」

宗教の出番 不条理に向き合うこと

「現代人が救いを求めていないのだとすると、宗教の出番はどこにあるのでしょうか。」

「脆弱」という意味では、医療も宗教と変わらない。コロナ禍で1000万人以上が亡くなり、世界は医療の

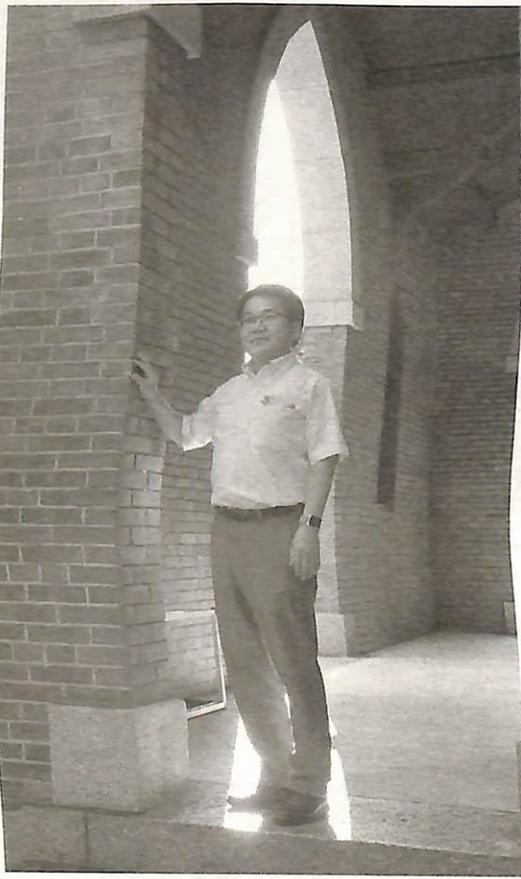


在では同じことを語っても、救いのリアリティーが全く別物になっているの

で、通じない。現代人は、彼岸的な意味での救いを求めているのではないか」

無力さを体験した。治療薬もワクチンもない中では、絶対に救ってくれるわけはない」

「人間は一人一人が根本的な不条理にさらされている。科学は現代社会を隔々まで制御しているが、どこまで」



れていることがあらわになった。誰かが感染をコントロールできるわけではなく、自分たちの意思だけでは物事を決められないことがはつきりした。そうした状況で、人が不条理とどう向き合うべきかは、宗教が語れる領域だ」

経済との両立 違う生き方を示せ

「政府は感染症対策と経済活動の両立を目指しています。」

「戦後の日本社会の根本的な価値観は、物質的な繁栄を幸せと捉えることだ。もう十分なのに、まだ経済成長が必要だと言いつつ、成長するなら少々の犠牲が出てもやむを得ないという発想を持ち、格差が広がっても『努力が足りないからだ』と平気で切り捨てる。コロナ禍では、そういう」

「ポストコロナ」や「ウィズコロナ」と言われるこれからの時代に、宗教は社会とどう向き合えばいいでしょうか。

「コロナ禍で見えてきたひずみに光を当て、元の社会に戻していいのか、と問うべきではないか。欲望で経済が回り、自然が破壊されても構わない、という持続性を欠いた社会ではなく、どういった社会にするか

ですら、いつかは形がなくなるという認識は、仏教の根本思想。その認識に立てば、何があっても不安にはならない」

「変えるべき点は少なくとも二つある。一つは分散型社会の実現。もう一つが自然保護だ。人間による森林破壊を前提とした消費活動に、厳しい目を向ける必要がある。快適な食生活や便利なITを支える食料資源と鉱物資源が、豊かな自然を犠牲にして成り立っていることを直視しなければならぬ。」

「成長神話は、戦後の日本人が共通して信じていた宗教のようなものだ。それを偽物の宗教だと指摘し、『どうわれから解放されて違う生き方をしよう』と人々に伝えられれば、宗教がある種の救いを与えたと言えぬ」

「どのようになれば、われわれを成長神話から解放できると考えますか。」

「われわれが資本主義に

「コロナ禍は地球規模の

「そうした矛盾が、仏教を招いている可能性はありませんか。」

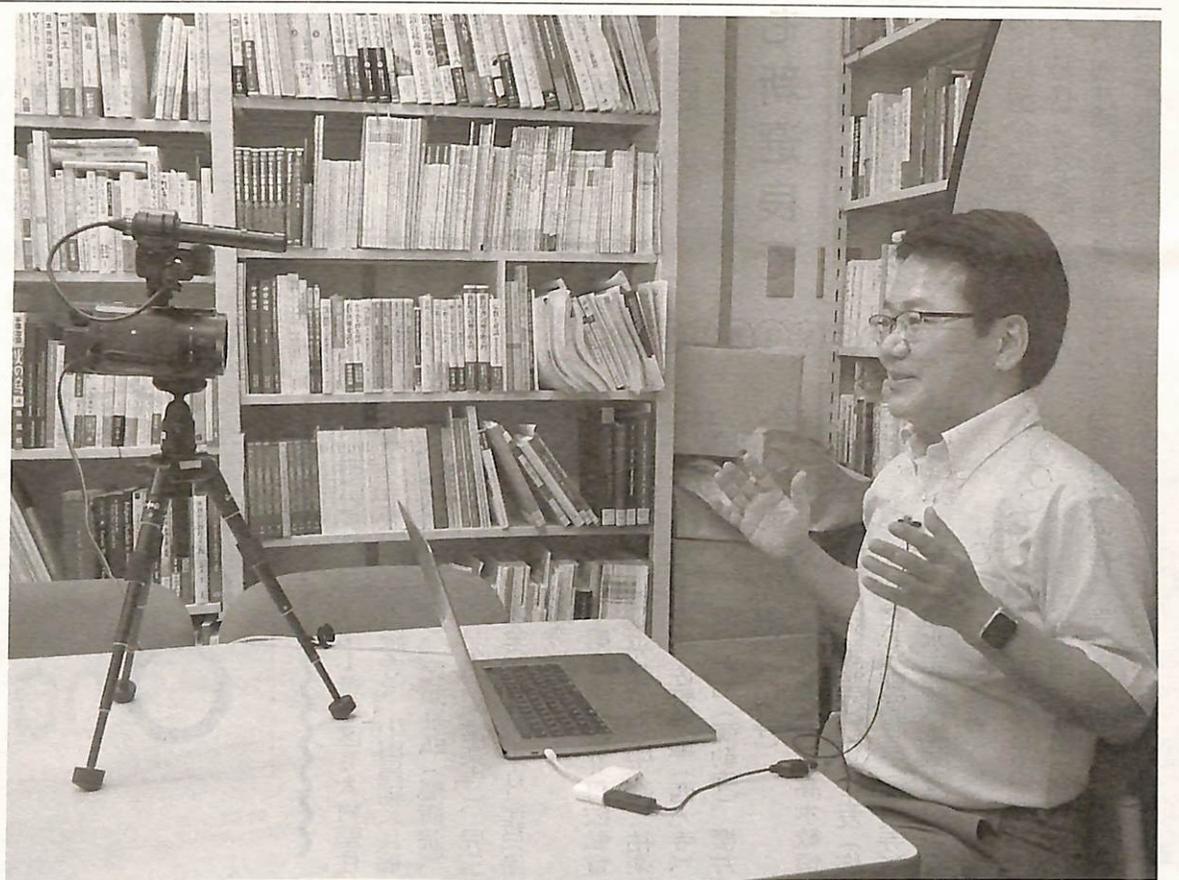
「変えるべき点は少なくとも二つある。一つは分散型社会の実現。もう一つが自然保護だ。人間による森林破壊を前提とした消費活動に、厳しい目を向ける必要がある。快適な食生活や便利なITを支える食料資源と鉱物資源が、豊かな自然を犠牲にして成り立っていることを直視しなければならぬ。」

「われわれはパンデミックとパンデミックの間、すなわち『インターパンデ

「巨額の公共投資で同じ構造を作り直すことは、パンデミックの抑止力にはならない。気候変動の要因になる事柄が増え、生物多様性は損なわれ、持続不可能な社会に向かってしまう」

「なぜ、宗教界には言えませんか。」

「資本主義社会で普通の



「現代人は『自分が生きている間は何かを持ちたい』という思考を、後のことは知らない」という思考をする。宗教界がそこを超えて何ができるかを問題提起すれば、元の形とは違う社会を構想できる」

「変えるべき点は少なくとも二つある。一つは分散型社会の実現。もう一つが自然保護だ。人間による森林破壊を前提とした消費活動に、厳しい目を向ける必要がある。快適な食生活や便利なITを支える食料資源と鉱物資源が、豊かな自然を犠牲にして成り立っていることを直視しなければならぬ。」

「現代人は『自分が生きている間は何かを持ちたい』という思考を、後のことは知らない」という思考をする。宗教界がそこを超えて何ができるかを問題提起すれば、元の形とは違う社会を構想できる」